

第75回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2013年11月27日(水) 10:00～18:30

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：(委員22名中、出席者20名；敬称略)

小山(三菱重工) 永田(日立GE) 肥田(中部プラントサービス) 町田(テプコシステムズ) 野村(関電)

杉江(原安進) 岩佐(東芝) 小島(東電) 山田(中部電力) 田中(日本製鋼所) 鹿島(電中研：AM)

笠原(東大：PM) 月森(JAEA) 神坐(富士電機) 鬼沢(JAEA) 兼近(鹿島)

栗飯原(東大：AM) 小林(日本原電) 古川(電気協会)

代理：佐藤(川崎重工：小木曾委員) 北条(MHI：鹿島委員：PM)

欠席：佐藤(発電技検) 望月(阪大)

オブザーバー：齋藤(原安進) 北条/山本/朝田(MHI) 高坂(日本原燃) 清水(日立GE)

鈴鹿(東芝) 稲田/森田/三枝(電中研) 西澤/小川/中間/浦辺(日本原電) 下条(神戸製鋼所)

中村(阪大) 浅山(JAEA) 和地(JNES)

事務局：高柳、小沢、栗津

4. 配布資料

75-1：第74回原子力専門委員会議事録案

75-2：投票結果

75-3：新規質問及び公衆審査結果

75-4：第66回発電用設備規格委員会議事録案

75-5：原子力専門委員会委員/分科会委員案

75-6-1：高速炉ISI方針検討タスク活動終了

75-6-2：規格委員会での「資料取扱内規案」の各専門委員会での書面投票

75-6-3：シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン案規格委員会書面投票コメント対応

75-6-4：規格委員会補足倫理規定案

75-6-5：各分科会平成26年度活動計画等

75-6-6：デジタルRT検討タスク活動終了

75-6-7：金属カスク構造規格2013年版規格委員会投票対応

75-6-9：原子力関連学協会規格類協議会状況

75-6-10：ASME Code Week AtlantaにおけるMDEPプロジェクトSDO打合せ報告

75-6-11：一般要求事項検討タスク今後の活動について

75-6-12：爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスク検討結果報告

75-7-1-1：金属カスク構造規格2013年版改訂提案

75-7-1-3：金属カスク構造規格2013年版原子力専門委員会書面投票コメント回答案

75-7-1-4：金属カスク構造規格対照表

75-7-2-1：アルミバスケット材料の事例規格改訂版及び事例規格集の発行準備について

75-7-3-1：金属カスク構造規格2013年版追加提案

75-7-3-2：金属カスク構造規格2013年版改訂版の追加提案

75-7-4-1：金属カスク構造規格2014年版の規格委員会書面投票対応

75-8-1-1：BWR配管減肉管理に関する技術規格 原子力専門委員会書面投票意見に関する対応

75-8-1-2：BWR配管減肉管理に関する技術規格 新旧比較表

75-8-2-1：原子力専門委員会書面投票NO.322 意見対応

75-8-2-2：BWR配管減肉管理に関する技術規格 配管分岐合流部の必要最小厚さの設定

75-8-2-3：PWR配管減肉管理に関する技術規格 配管分岐合流部の必要最小厚さの設定

75-9：再処理設備規格 維持規格の改訂方針案に対する御意見伺い

75-10-1：CCV規格改訂案についての規格委員会コメント回答案

75-10-2：CCV規格改訂案に対する規格委員会書面投票結果

75-10-3：規格委員会コメント回答案

75-10-4：CCV規格改訂案

75-10-5：C C V規格改訂案審議項目

75-11-1：JEAG4208-2012「軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針」対応

75-11-2：事例規格「JEAC4601-2008 耐震設計技術規程の地震力の扱い」改訂案

75-12-1：溶接規格 原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO.324）回答案

75-12-2：溶接規格 2014 年追補改訂案（その 2）原子力専門委員会書面投票提案

75-13-1-1：設計・建設規格 2014 年追補改訂案原子力専門委員会書面投票コメント対応案の提案

75-13-1-2：設計・建設規格 2014 年追補改訂案原子力専門委員会コメント及び対応案一覧

75-13-1-3：設計・建設規格 2014 年追補規格改訂案件一覧表

75-14-1：質問回答

75-14-2：公衆審査結果と編集上の修正提案並びに規格の発行について

75-14-3：材料規格 2012 年版正誤表

75-14-4：材料規格 2012 年版 / 2013 年追補改訂提案

75-15：設計・建設規格（2012 年版）第 編高速炉規格正誤表

75-16：各分科会活動報告

5．議事内容

（１）開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

（２）出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

（３）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

（４）前回議事録確認【資料 75-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

（５）投票結果報告【資料 75-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No.324 から 331、規格委員会投票 No.235 から 240 の投票結果が報告された。また No.330 の原子力専門委員会投票において新しい原子力専門委員会委員長として永田副委員長が選任され、次回規格委員会において承認予定であることが報告された。

（６）質問受付＆公衆審査結果【資料 75-3】

事務局より、設計・建設規格に関する新規質問（２件）の受付状況が報告された。

また公衆審査結果として溶接規格 2013 年追補案・事例規格集案、材料規格 2013 年追補案及び維持規格 2013 年追補案の意見受付はなかったことが報告された。

（７）第 66 回発電用設備規格委員会議事録等報告【資料 75-4】

事務局より、第 66 回発電用設備規格委員会の議事録案が報告された。

（８）原子力専門委員会委員 / 分科会委員の承認【資料 75-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕小山委員、佐藤委員

設計・建設分科会：

[再任] 松原委員
[退任] 楠委員、伊藤委員
[新任] 太田氏（日本原電）
[三役異動] 永田主査→委員、山田副主査→委員、朝田幹事→主査、鵜飼委員→副主査、太田氏→幹事
材料分科会：
[退任] 伊藤委員
維持規格分科会：
[再任] 水谷委員、望月委員、山本委員
[退任] 和地委員
[新任] 北条氏（三菱重工）
溶接分科会：
[再任] 神垣委員
使用済燃料貯蔵施設分科会：
[再任] 松田委員、穴見委員
[退任] 道券委員、伊藤委員、藤本委員
[新任] 森氏（東芝）、牟田氏（日本原電）
配管破損防護設計規格分科会：
[再任] 永田委員、武内委員
[退任] 吉岡委員
[新任] 甲斐氏（IHI）
高温規格分科会：
[再任] 浅山主査、芋生委員、佐藤委員
[退任] 月森委員
再処理設備分科会
[再任] 鈴木委員
配管減肉分科会
[再任] 野崎委員
[退任] 伊藤委員

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

[審議事項]

（９－１）高速炉 ISI 方針検討タスク【資料 75-6-1】

月森タスク幹事より高速炉 ISI 方針検討タスク活動終了に関する説明が行われた。タスク活動報告書に対する原子力専門委員会御意見伺いに関する書面投票結果とその対応は報告書に反映し、タスク設置時の目的を達成した。報告書では高速炉における ISI 方針の考え方を明らかにし、その考え方に基づき「もんじゅ」ISI 方針を検討した。更に高速炉維持規格策定の方向性に関する提言をまとめた。タスク活動終了に対する原子力専門委員会書面投票の提案が行われ、委員全員の賛成により承認された。

（９－２）規格委員会での「資料取扱内規案」の各専門委員会での書面投票【資料 75-6-2】

齋藤委員より規格委員会での「資料取扱内規案」の各専門委員会での書面投票対応状況に関する説明が行われた。各専門委員会でも書面投票を実施したが、核融合専門委員会でも反対投票があり、承認されなかった。原則公開と言いながら、制限が多く、企業秘密やノウハウ等の制限に絞り、他は自由にすべき等の意見があった。コメントを反映した改訂版を作成したが、まずは規格委員会幹事会で検討し、その結果を踏まえて原子力専門委員会再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－３）シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン書面投票対応【資料 75-6-3】

永田副委員長よりシビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン案の規格委員会書面投票（反対票有り）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

（ 9 - 4 ）規格委員会補足倫理規定案【資料 75-6-4】

小山委員長より規格委員会補足倫理規定案の規格委員会及び各専門委員会の書面投票意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、原子力専門委員会としての再投票は不要であることが委員全員の賛成により承認された。

（ 9 - 5 ）各分科会平成 26 年度活動計画等【資料 75-6-5】

小山委員長より各分科会平成 26 年度活動計画、規格整備ロードマップ、技術評価状況に関する説明が行われた。これら各分科会平成 26 年度活動計画等に対する御意見伺いの書面投票提案が行われ、委員全員の賛成により承認された。

（ 9 - 6 ）デジタル R T 検討タスク活動終了【資料 75-6-6】

山田タスク主査よりデジタル R T 検討タスク活動終了に関する説明が行われた。報告書については原子力専門委員会御意見伺いの書面投票結果を反映済。タスクの成果として事例規格「溶接部に対するデジタル放射線透過試験装置を用いた非破壊試験方法」を策定し、以後の対応は溶接分科会に引継ぎ。タスク活動終了に関する書面投票提案が行われ、委員全員の賛成により承認された。

[報告事項]

（ 9 - 7 ）金属キャスク構造規格 2013 年版規格委員会投票対応【資料 75-6-7】

小山委員長より金属キャスク構造規格 2013 年版規格委員会投票対応に関する説明が行われた。規格委員会書面投票対応では、規格に関する一般要求、管理的観点、技術的観点から多くの意見が出され、それらに対処するためのタスク設立が必要。中長期的課題対応は原子力専門委員会傘下の、アルミ合金等の技術課題は規格委員会傘下のタスクで検討する。これら今後のタスク設立の必要性が委員全員の賛成により承認された。

（ 9 - 8 ）設計建設規格英訳タスクの状況

永田副委員長より設計建設規格英訳タスクの状況に関する説明が行われた。設計建設規格の英訳版は昨春秋、完成。英訳版の native check についてはファンド面の手当てが付き、現在実施中。

（ 9 - 9 ）原子力関連学協会規格類協議会状況【資料 75-6-9】

小山委員長より原子力関連学協会規格類協議会の状況として、技術評価の状況、規制庁職員の規格委員会への参加者資格等に関する説明が行われた。

（ 9 - 10 ）MDEP の状況【資料 75-6-10】

永田副委員長より MDEP の状況として、ASME Code Week Atlanta における MDEP プロジェクト SDO 打合せに関する説明が行われた。AFCEN 等の欧州諸国は要員認証・認定を主要議題にしたい意向であるが、JSME は対象としない意見。来年 5 月には MDEP コンファレンスで SDO Convergence board の進捗状況を紹介。

（ 9 - 11 ）一般要求事項検討タスクの状況【資料 75-6-11】

小山委員長より一般要求事項検討タスクの今後の活動状況に関する説明が行われた。タスクの成果として事例規格を発行。関連各所と認証制度等の意見交換実施。

（ 9 - 12 ）爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスク検討結果報告【資料 75-6-12】

山田タスク主査より爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスク検討結果報告に関する説明が行われた。規格委員会において本件の独立した規格を策定する場合には歪み評価手法の統一という課題があること、原安進策定のガイドラインは規制委員会の技術評価を受ける要件を有しているため、本タスクにおける検討は終了する。タスク活動終了に関する書面投票提案が行われ、委員多数の賛成（賛成：19 票、保留：1 票）

により承認された。主な議論は以下の通り。

・原安進では、当該ガイドラインを策定した時の組織は既に解散しており、規制庁の技術評価に対応する人員がいない。→本タスクには当該ガイドラインを策定した時の関係者が多くあり、技術評価の際には協力可能である。

(10) 原子力発電用設備規格に関する報告 / 審議

(10 - 1) 使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 75-7-1~4】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、清水幹事、下条委員より使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案【資料 75-7-1,3】

原子力専門委員会書面投票 (NO.331 : 可決) 意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。また金属キャスク構造規格で適用される材料規格を現行の 2011 年版から 2012 年版へ変更する原子力専門委員会書面投票の提案に関する説明が行われ、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。主な議論は以下の通り。

・異なる発行年の規格を使用する場合は事業者が JSME に確認すると記載されているが、JSME への確認はメーカーが行い、事業者の承認を取るケースもあるのではないかと？→例えば中間貯蔵施設のキャスクの場合、キャスク本体と三次蓋を 2007 年版の金属キャスク構造規格に準拠して製作し、追加的にキャスク本体だけ 2013 年版の金属キャスク構造規格に準拠して製作する場合がある。このような場合、2013 年版で製造した金属キャスクに 2007 年版で製造した三次蓋を使用することになり、このような使い方をすることを設計仕様書に明記することになる。設計仕様書は事業者が作成することになるため、結果として事業者が異なる発行年の規格を使用することを JSME に確認することになる。どのキャスクにどの三次蓋を使用するかはメーカーではなく、事業者が決定することになる。→これについては以下の 2 案に関して採決を実施した。

A 案 : JSME への確認は事業者に限定する。

B 案 : JSME への確認は事業者に限定しない。メーカーが行っても良い。

結果として A 案は 5 票、B 案は 13 票となり、B 案を規格委員会に対して附帯意見として提示することになった。

アルミバスケット材料の事例規格改訂版及び事例規格集の発行準備【資料 75-7-2-1】

アルミバスケット材料の事例規格改訂版及び事例規格集の発行準備に関する説明が行われた。2009 年に登録されたアルミバスケット材料事例規格の金属キャスク構造規格 2013 年版への取り入れは、クリープデータ整理に用いる LMP の定数 C の妥当性の確認を行う必要が生じたため、見送ることになった。そのため、まず 2009 年に登録されたアルミバスケット材料事例規格については、LMP の定数 C の妥当性を確認し、クリープデータ整理の見直しを反映した事例規格の改訂版を準備する。2013 年に登録されたアルミバスケット材料事例規格は上記の結果を踏まえて必要に応じて見直しを行う。以上が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・工程表は現実的な予定とすること。規格委員会書面投票が終了してから半月後に公衆審査開始は通常、ありえない。規格委員会書面投票終了後、規格委員会での審議を経て、公衆審査が開始される。

・工程表に材料専門委員会でのレビューを記載すること。

金属キャスク構造規格 2014 年版の規格委員会書面投票対応【資料 75-7-4-1】

金属キャスク構造規格 2014 年版の規格委員会書面投票対応に関する説明が行われた。上記 の提案について、原子力専門委員会書面投票可決を条件に、規格委員会書面投票の提案を行う。また規格委員会書面投票が

可決の場合、規格委員会に公衆審査実施の提案を行う。以上が委員全員の賛成により承認された。

(1 0 - 2) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 75-9】

再処理設備分科会の山本主査より、再処理設備規格 維持規格の改訂方針案に対する規格委員会御意見伺いの書面投票意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(1 0 - 3) コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案に関する審議【資料 75-10-1～5】

コンクリート製原子炉格納容器規格分科会の西澤幹事、日本原電の小川氏よりコンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の規格委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であること、今回の書面投票意見対応により一部技術上の修正が発生するため、原子力専門委員会書面投票を実施すること、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会に書面投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・書面投票用資料は技術上の修正か、編集上の修正か、を分け、その様な分類が妥当か？書面投票で確認する。
- ・CVE-5150 で(2)の工事監理者の記録提出の記載を削除しているが、削除については、具体的に何を削除したか、分かる様にする。
- ・再処理設備規格、高速炉規格は維持、溶接が別構成となっているが、CCV規格はISIを取り込み、全て一体になっている。これら構成を統一する課題については、継続して検討する。
- ・維持規格に関する記載は誤解が生じない様、丁寧に記載する。
- ・現状原子力専門委員会では建築の専門家が1人しかいない。十分な審議ができるのか？→分科会には建築の専門家が多数おり、原子力専門委員会では規格の横通しのつながり、規格委員会では審議プロセスの確認が主に行われ、問題はない。
- ・CVE-1240 において所有者等の責任が記載されているが、所有者に全責任があり、施工者等の責任が記載されていない様に読めるのでは？→CVE-1240 は用語の定義に関する条項であり、責任に関する規定はCVE-4000 番台に記載されている。

(1 0 - 4) 維持規格改訂案に関する審議【資料 75-11-1,2】

維持規格分科会の野村主査、評価作業会の北条主査、検査作業会の浦邊委員より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

JEAG4208-2012 発行対応【資料 75-11-1】

原子力専門委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

事例規格「JEAC4601-2008 耐震設計技術規程の地震力の扱い」改訂案【資料 75-11-2】

維持規格 2012 年版にクラス 2,3 機器の欠陥評価が追加されたが、それに伴い、JEAG4601 の地震動 S1,S2 を JEAC4601 の地震動 Sd,Ss に読み替える事例規格の適用範囲にクラス 2,3 機器の欠陥評価を追加する原子力専門委員会書面投票の提案が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。

(1 0 - 5) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 75-12-1,2】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO.324）回答案【資料 75-12-1】

原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO.324）回答案（可決）に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

溶接規格 2014 年追補改訂案（その 2）原子力専門委員会書面投票提案【資料 75-12-2】

溶接規格 2014 年追補改訂案(その2)原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。主な議論は以下の通り。

・自動溶接士技能確認試験の改訂を予定しているが、火力側との整合は取っているのか？電力小委において火力の溶接技術解釈が改訂される予定である。火力と原子力の溶接士技能確認試験は合わせる方が良いのでは？
→火力の溶接士技能確認試験の改訂は、まだ、発行されていないため、改訂予定の内容は確認できていない。火力と原子力の溶接士技能確認試験は整合させた方が望ましいと考えるが、法体系も異なるため整合化は必須条件ではなく、異なることもあり得ると考える。なお、今回の改訂は規定内容を分かり易くするためのものである。

・溶接施工法確認試験の裏面からのガス保護に関する改訂案で、図 2-2 に裏面溶融（酸化）状況の写真があるが、例えば入熱 15KJ/cm で板厚 6mm の試験の場合、試験結果の表 2-4 では裏側未溶融となっているが、写真では裏側溶融となっている。表 2-4 と図 2-2 に相違点があるのではないかと確認する。

(10 - 6) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 75-13-1～3】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格 2014 年追補改訂案に関する説明が行われた。設計・建設規格 2014 年追補改訂案の原子力専門委員会書面投票は可決。意見対応案として、鍛造品の定義において、JIS 規格で受渡当事者間の協定で鍛錬成形比 4S 未満での製造が認められるが、この扱いはどうするか？というコメントについては、本件を除くことを規格案に追記。またフランジハブ長さの大小関係については誤記を修正。議論の結果、対応案が妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10 - 7) 材料規格改訂案に関する審議【資料 75-14-1～4】

材料分科会の山田主査より、材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

設計・建設規格付録材料図表への質問回答【資料 75-14-1】

設計・建設規格付録材料図表への質問回答案に関する説明が行われた。議論の結果、QNC2005107 の質問回答案が委員全員の賛成により承認された。

公衆審査結果と編集上の修正提案並びに規格の発行【資料 75-14-2】

材料規格 2013 年追補案の公衆審査結果と編集上の修正提案並びに規格の発行に関する説明が行われた。公衆審査では意見はなかったが、一部 JIS 番号に年版削除漏れ等が確認されたため、これらの対応を編集上の修正として行う。この対応を行った上、材料規格 2013 年追補の発行を行う。議論の結果、委員全員の賛成により承認された。

材料規格 2012 年版正誤表【資料 75-14-3】

材料規格 2012 年版正誤表に関する説明が行われた。材料規格 2012 年版において一部頁の重複が確認されたため、これの削除を行う。議論の結果、委員全員の賛成により承認された。

材料規格(2012 年版/2013 年追補)改訂提案【資料 75-14-4】

材料規格(2012 年版/2013 年追補)改訂提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(10 - 8) 高速炉規格改訂案に関する審議【資料 75-15】

高温規格分科会の浅山主査より、設計・建設規格(2012 年版)第 編高速炉規格正誤表案に関する説明が行われた。議論の結果、正誤表案が妥当であり、規格委員会に正誤表案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10 - 9) 配管減肉管理規格改訂案に関する審議【資料 75-8-1,2】

配管減肉分科会の稲田主査、北条副主査、小島幹事、中村委員、鈴鹿委員、BWR作業会の森田副主査、PWR作業会の中間委員より配管減肉管理規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

BWR配管減肉管理技術規格の原子力専門委員会書面投票意見回答案【資料 75-8-1-1,2】

BWR配管減肉管理技術規格の原子力専門委員会書面投票（NO.311:可決）意見回答案に関する説明が行われた。代表部位見直しフローの見直しについては現在対応案を検討中。それ以外については意見回答案作成完了。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・測定位置に関する明確化において、容器ノズルは対象外か？以前、減肉事例があった。→機器側において、機器と一緒に点検している。BWR配管減肉管理技術規格は配管を対象としている。

配管分岐合流部の必要最小厚さの設定案【資料 75-8-2-1～3】

配管分岐合流部の必要最小厚さの設定案に関する原子力専門委員会書面投票（NO.322:可決）意見回答案に関する説明が行われた。分岐合流部は直管より裕度は下がるが実験及び解析により安全率3を確保できており、強度的に十分である。これに対して面積補強の考えからも、設計段階で確保していた裕度を維持段階で切り下げることに関する説明が必要との保留票があった。対応として、実験及び解析により維持規格で要求される安全率3を確保できている等の説明を記載した資料を参考資料に追加し、原子力専門委員会再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・配管分岐合流部の必要最小厚さの設定に関する資料について、参考資料-5は具体的にどの箇所になるのか？→わかるように明示する。

・減肉配管の破壊評価にはSA時CV健全性評価で導入したような応力の三軸度を考慮するパラメータは不要で、引張強さで評価できるということか？→そのとおり。一様減肉条件や今回検討した局部減肉形状では、三軸度の補正は不要との結論。

（ 1 1 ）各分科会活動報告【資料 75-16】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

原子力専門委員会の今後の予定は以下の通りになった。

第76回：2014年2月27日（木）10:00～17:00（予定）JSME第1会議室

以上